

# 会報 わかくさの風

No.18

## 社会福祉法人戸田わかくさ会

〒335-0021 埼玉県戸田市新曽1522-1 わかくさ内

Tel 048-432-8198 Fax 048-432-8298 <http://www.wakakusa-kai.com/>

みんなの笑顔 ハッピーな笑顔

第3回

### わかくさ会まつり

平成30年12月8日(土)

午前10時～15時まで

場所 わかくさ

内容 ステージ発表

利用者の展示

模擬店

抽選会など

(ボランティア募集中)

わかば(吉長) 446-6785 まで

主催 わかくさ会まつり実行委員会

第3回

わかくさ会まつり

今年度、第3回目のわかくさ会まつりを実施することになりました。まつりの概要は左の図のとおりです。

わかくさ会まつりは平成25年を初回として隔年ごとに実施し、今回3回目を迎えます。前回は芦原小学校を借りて行いましたが、今年は第1回目のごきとと同じようにわかくさを中心として展開していく予定です。

また、「あいらのも杜」にもご協力いただき、敷地の一部をお借りしましたので、一緒にまつりを楽しみたいと思っております。

第2回

↑ わかくさ会まつりの様子



今までのわかくさ会まつりでは、戸田わかくさ会のことを広く住民の皆さんに知ってもらうことや事業所の利用者同士の交流等を中心に展開してきましたが、今年ではできれば、わかくさやその他の事業所で色々な面でお世話になっている方たち(企業のみなさんやリサイクル協力者、ボランティアの皆さん等)をお招きし、日ごろの感謝をまつりの場で表していきたいと考えています。わかくさ会は法人化して今年で14年目を迎えますが、これもいろいろの方々のお陰によりここまで来られました。お世話になっている方々に利

用者や支援員から感謝を伝えたいと考えています。また、12月は障害者記念週間でもありますのでそれも兼ねて実施することになります。ところで、この祭りのスローガンは「みんなの笑顔 ハッピーな笑顔」です。皆さんは駅前清掃、フラワーセンター、会社や個々の家の清掃活動、受託作業等で私たちの働いている様子を見かけられるでしょう。今までも少しずつ地域への働きかけをしてきましたが、以前よりは法人で働く利用者のこともだんだん知られるようになりました。これは喜ばしいことですが、一般的にはまだまだ理解が得られているとは思いません。そういう意味でもこのわかくさ会まつりというのは絶好の機会なのです。どなたでもご来場いただけますし、利用者の発表や他団体の演目、模擬店、抽選会、楽しいイベント等をたくさん用意していますのでお気軽においでください。

### ボランティア募集中

当日の実施に際してボランティアを募集しています。一緒にまつりを盛り上げませんか。原則として高校生以上ですが、われこそはと思われる方はぜひ実行委員会までご連絡ください。

(わかば所長 鈴木)

# 仲間の力で悲しみを乗り越えて

## 人は関係の中で「働き」をする ④

### 悲しみ

人は必ず死と向き合う。悲しいことであるが、避けることはできない。グループホームに居し、作業所に通所しているSさん。母親とSさんには、財産管理と身上監護を業務とする社会福祉士の専門後見人がついている。母親は高齢でもあり、体調を崩し、入院となった。危険な状況を迎え、いつ亡くなってもおかしくないとの医師の宣告。グループホームの職員は辛い思いをさせなければならぬ母親との面会をどうしようか悩んだ結果、グループホームの職員が同行し、病室を訪ねた。「お母さん」と呼ぶ娘の声掛けにいくらか表情がゆるんだ様に見えた。しかし返事がない。Sさんはこ

の現実をどのように受け止めているだろうか？

父親の死を経験していることもあり、「天国にいつちやうのかな」と悲しそうな小さな声。その数日後、訃報が入り、二人の後見人は喪主Sさんに代わって葬儀などの準備を行い、お通夜を迎えた。

### 本人の力・仲間の力

お通夜には職員も付き添って、グループホームの仲間、二人が来てくれた。二人はSさんを見るなり、駆け寄り「元気そうよ！」と励ましの声をかけている。Sさんは「泣いちちゃっていいのかな！泣いちちゃっていいの」と職員に何度も聞いてくる。職員は、

「悲しいよね。涙を流してもいいんだよ」と声を掛けた途端、大粒の涙。読経が始まった。グループホームの仲間は、喪主であるSさんに会釈をし、焼香する。一人が焼香の仕方がわからないのか、もたもたしていると、もう一人が手を取りながら教えている。そして二人揃って手を合わせ深々と頭を垂れる。喪主Sさんの挨拶。短い挨拶であったが、凜としていた。

翌日も職員が付き添って最後のお別れを迎えることになった。告別式も終わり、火葬に向かう時に優しい顔で眠る母親の顔をじつと見つめて、「天国に行くんだね。お母さん」「お母さん、頑張ったよ。お母さん喜んでくれたかな、喜んでくれたかな」と嗚咽する。涙は止まらない。



### 親なき後の地域生活

今、グループホームで落ち着いた生活を過ごしている。彼女の部屋にはお遺骨と笑顔のお母さんの写真、そして先に亡くなった父親の写真が飾られている。毎日、お水とご飯を上げ、作業所に行く前に「行ってきます」、帰ってくると「ただいま！」と手を合わせる。しばらくしてからお通夜に行った利用者と会い、Sさんのことを聞くと、「元氣を出そうよと声をかけているから大丈夫だよ」と言ってくれた。感謝！後見人にも深謝したい。親なきあとも社会に支えられて、生活して行けるようにしなければと改めて決心したところである。

なお、掲載については、後見人、本人に了解を得ています。

(統括施設長 竹嶋)

## 公開研修「誰もが幸せに暮らせるまちづくり」 ～障害のある仲間が豊かに生きていくために～



### 【戸田わかくさ会公開研修】

平成30年9月1日(土) 戸田市文化会館にて「誰もが幸せに暮らせるまちづくり!」障害のある仲間が豊かに生きていくために」というテーマのもと公開研修を開催しました。

「誰もが自分らしく幸せに暮らしたい」という思いの実現に向けて制定された障害者差別解消法の施行から2年が経過しました。改めて一人ひとりが認め合い支えあえるまちづくりを考えていきたいということ、今年度は社会福祉

法人みぬま福祉会総合施設長の松本哲氏をお招きし、「地域に根差す」とは、「その中で一人ひとりが自分らしく暮らす」とはどういうことかを太陽の家での実践や、これまでのご自身の経験を基にご講演いただきました。

### 【地域の中で豊かに生きること】

講演では、「自立」をキーワードに、太陽の家において、常に寄り添う支援という形で関わってこられたからこそ得られた「人が真に自立して生きる難しさや楽しさ」についてみぬま福祉会のあゆみと共に話し頂きました。また、その中で地域住民や行政とどのように繋がり、連携を模索し育んできたのかというのを、時代背景を交え具体的なお話として聞くことが出来ました。講話の中で、「『出来る・出来ない』ではなくその人が社会との関わりの中で経験を積み成長していく経過である。自分で立ち、自分らしく立ち、そして支えあいながら自分たちで立つ

ていく。」と触れられていました。他にも「親とは別の大事な人と出会った時に人は成長する。私たちは、出会いに責任をもつ必要がある。」「人は許容しあって生きることが出来る」：数々の困難と向き合いながら変化や楽しさも実感されてきたからこそ出た言葉ではないかと思えます。

そのように真摯に向き合えたのも、周囲の理解が得られて、それを継続出来ているからというお話もありました。障害を抱える人にとって厳しい時代もあったと思います。しかし、周囲の理解を得るために家族や職員がひとつになり、丁寧に取り組みを積み重ねてきたことが「太陽の家がやる事であれば、協力するよ」という地域住民からの言葉になり、今のみぬま福

祉会の礎と信頼になっていて感じました。このお話は、地域の中で施設が当たり前に存在している意味を改めて考える良い機会にもなったと思います。

### 【参加者の声】

当日は、98名の方の参加があり、一般の方を含め、市議会議員、行政関係者、教員、福祉関係者など多方面からたくさんの方が参加してくださいました。アンケートでは「利用者として接する際の気持ちをお教わりしました」「人として専門職として、当たり前前することを当たり前に行える人間になりたい」と自身の現状や事業所のあり方を見つめ直す機会になったという声が多く聞かれました。一方、一般の来場者の方からも「人を認める大切さこそ、地域を形成する基礎となること分かりました」と、障害を抱える方との関わりだけではなく、何をしていくことが着実な人間関係形成につながるかということを考える良い機会にもなったと思います。今回の講演で得たものを具現化出来るよう、双方向の信頼を形成していくという姿勢で携わっていきたいと思います。

(研修委員 織茂)



# 各事業所の取り組み

## わかくさ

### 畑始めました!

#### ◆もつと地域に出よう

わかくさは、戸田市という地域の中で日中活動をしていきますが、施設の外に出る機会がある利用者が一部の人に限られてしまっている現状があります。「もつと色々な人が外に出られる機会があったら普段触れたり見ることのできない物に触れる面白さや楽しさを感じられるのでは…」との思いがありました。また、わかくさでは野菜販売を仕事として取り組んでおり、利用者にとっても野菜は身近な存在です。そんな身近なものを外の空気を吸いながら育んで行けたら…との思いから、今年度の新たな取り組みとして畑作業に取り組んでいます。畑は戸田市が貸し出しているもので、わかくさから歩いて3分程の場所にあります。その畑を借り、植物や野菜などを育てようと思案を重ねているうち

に真夏の猛暑となってしまった為、夏場は秋に向けての土壌作りから始めました。借りた当初は、土が見えないくらい草がたくさん生えていたので、週に1回利用者と草取りを行いました。猛暑の中の草取りは、体力仕事でも大変でしたが、毎回ゴミ袋2〜3袋がパンパンになるくらい草を取り、徐々に土が見えてくると、目に見える達成感を味わいながら楽しく取り組むことができました。

#### ◆わかくさの中でも



また、わかくさ内ではプランターに苗を植え、毎日利用者と一緒に水やりを行います。まだ本格的には始まりませんが、ようやく涼しい季節になってきたので、外の空気に触れながら、種や苗を植え、水やり、育った花や野菜を収穫することで、自ら育てる喜びを感じて

もらえればと思います。今後は収穫した野菜をみんなで一緒に食べたり、花を自宅に持ち帰り、家族と楽しんだりすることを目標に取り組んでいきたいです。

(永井)



## ゆうゆう

### どら焼き販売を通じて

#### ◆販売開始10年

ゆうゆうでは今シーズンも夏から秋にかけて多くのイベントに参加してどら焼きを販売しています。戸田市内だけではなく、蕨市やさいたま市、川口市、ときには都内にも行きます。

販売開始から10年も過ぎ、戸田市内ではおかげさまで知名度があがってきて、試食を出さなくても

お客様が来てくれるようになりました。

ただ、いったん市外に出ると、私たちもまだまだです。9月1日、2日に行ってきた「ミエルかわぐち」での販売ではなかなかお客様が立ち止まってくれず、一時間かけてようやく一個売れるような苦しい時間帯もありました。最初のころを思い出します。

#### ◆どらやきを通じての縁

一方で、ご縁があつて9月に都内の保育専門学校のお祭に参加した時には「ゆうゆう」が障害者の施設であることを全く知らない来場者が次々とアイスどら焼きを買ってくれ、5時間で520個のアイスどら焼きが完売になりました。

いろんなところに参加をすることでご縁が広がり、11月にはさい



たま市の高齢者施設の販売にお誘いを頂きました。

「たくさん売って稼ぎたい」はもちろんですが、ゆうゆうのどら焼きを通じて、「ゆうゆうの人たち、頑張ってるね」と応援してくれる人を増やしていけることが私たちの願いです。

(浜田)

# かがやき

## 町内会館清掃の取り組み

### ◆現場で訓練

かがやきは清掃作業を中心として取り組んでいます。その中でもかがやき独特の取り組みとして町内会館の清掃作業があります。清掃作業に取り組みたい方には、かがやき内でも練習をしてきましたが、出来る内容も限られています。

そんな中、かがやきのある町内会館の清掃員の募集がありました。かがやきの中での練習だけではなく、実際の場で作業に取り組みことで、より意識的に身に付けるの

ではないかと、作業を受注することになりました。

### ◆実際に作業をして



町内会館の清掃内容は、はき掃除・拭き掃除・トイレ掃除等です。いずれも練習と同じやり方で行う

ことで、他の清掃場所でも応用できるようになってきました。作業をしているAさんに話を聞くと、町内会館の掃除をする前は、段差が怖く階段掃除が苦手とのことでしたが、町内会館の作業に参加することで自信が持てるようになってきました。

清掃作業の活躍の場を今後ますますに広げて行けたらと思います。

(寺内)



# グリーンングラス

## サテライトの生活

### ◆一人暮らしの練習

グリーンングラスは、3カ所のグループホームの他に、サテライト型の居室を2部屋運営しています。サテライトとは、法人が民間の賃貸住宅を借りて、一人暮らしの練習をするところです。2年間という期限があります。

昨年開設され、現在、二人の方が利用しています。1日1回はホームに来てもらっています。ですが、食事はお店で買ったたり、自分で調理したりしています。洗濯、そうじ、ゴミ捨てなどは自分で行います。3カ所のグループホームよりも一人暮らしに近い生活です。

職員は月に1回程度居室を訪問しています。最近の様子を聴いて困りごとがあれば一緒に解決したり、きちんと食事がとれているか掃除をしているか確認やアドバイスをしています。先日の訪問時にはできたての煮物を味見させてもらいました。上手に色々な料理を作って楽しんで暮らしています。

サテライトでの生活の良いところを利用者の一人に尋ねたところ、「自由があるところ」「いろいろな出かけられる」と答えてくれました。

一方、大変なところについては、「急に言われても…」と、日々の生活に追われてはいるものの充実しているようです。



### ◆サテライト卒業に向けて

二人とも入居して1年が経過しました。そろそろサテライトの卒業を考えていく時期にきています。職員も一人暮らしを意識した支援を模索中です。卒業しても全部一人で行うわけではなく、その後も必要なサポートをしていきます。また、住み慣れたサテライトの居室に、法人から個人に契約を切り替えることで住み続けることもできます。

グリーンングラスでは、今年度中にサテライトをもう一部屋増やす予定です。みなさんの自立した生活への一助となればと思います。

(松岡)

## わかば・ひかりの実践

『地域で暮らしたい!』『地域移行支援事業』について①

わかばは、障害のある方やその家族の方からさまざまな困り事等の相談を受け、各種手続き等の支援や福祉サービスをご紹介し、必要なサービスを受けられるように連絡・調整を行っています。「地域移行支援事業」は、わかばで行っている事業のひとつで、障害者支援施設に入所している方や精神科病院に入院している方が地域生活に移行するために必要な支援をしています。



まず、施設や病院を訪問し、利用者の方と相談しながら地域移行支援計画を作成します。地域で生活

活にするにあたって不安なこと、買い物に出かけられるか? 家事はできるか? 金銭管理は心配ないか? 家から通院できるか? バスや電車などの交通手段を使えるか? などをお聞きし、退院・退所までの目標を決めて計画を立てます。病院や施設にいる間に訪問や面談などを重ね、外出・外泊時の同行、住居探しの支援、福祉サービスの情報提供やサービス事業者への連絡調整などを実施していきます。退院・退所日当日の同行支援も行っており、少しでも安心して退院・退院ができるようにお手伝いしています。

次号では、「地域移行支援事業」を利用した事例を紹介します。

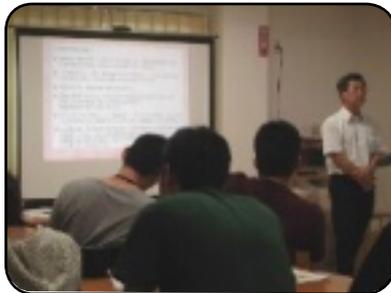
(吉長)

## 就労C・みなみの実践

第22回 良暇余暇(よかよか)サロンが開催されました!

◆楽しく学ぶ、集う

良暇余暇(よかよか)サロンは、就労中の知的障害を持つ方を対象に、戸田市就労支援センター・みなみの共同開催で、年3回行われている障害をもつ方の集いの場です。内容は、第1部で研修会、第2部で懇親会を行っています。開催にあたっては、意見発表はもちろん、当日の道案内や後片付け等、



みなさん自  
主的に手伝っ  
てくれてお  
り、ふだん  
の仕事で培っ  
た力を発揮  
しています。

◆お金のトラブルに

巻き込まれないために  
今年、平成30年6月16日(土)

に、第22回よかよかサロンを開催しました。テーマは「社会人研修『お金の使い方』」でした。ふだん頑張って稼いでいる大切なお金を、どのように使うのか、研修では、「お金づかい度」チェックシ

トで自分のタイプをチェックし、お金にまつわるトラブルについて勉強しました。「セールス・トークにはならない、きっぱり断る!」、

「友だちでもお金の貸し借りはしない」、「出会い系サイトには注意する」など、身近に起こりそうなケースを例に、寸劇やグループ討議を行い、自分の経験を発表してもらいました。

◆次のサロンに向けて

日々の業務の中で、利用者のみなさんから、「今度はいつやるの?」「内容は?」という問い合わせをよく受けます。このサロンが利用者の「楽しみ」や「仕事への励み」になっっていることを実感します。職員一同、次の企画に向けて力を合わせていきたいと考えています。

(みなみ 武田)



### 花火と交流の夕べ2018



「下ー！」  
という爆音に続けてキラキラと光る大きな夜空の花。  
「おおー！」  
という歓声と拍手が自然に湧きあがり、今年の戸田橋花火大会が始まりました。

8月4日(土) 17時半から戸田橋花火大会を皆さんで見ると、『花火と交流の夕べ』をゆうゆうで行いました。この会は、今年で12回目を迎えます。始まりは、ゆうゆうの指定管理を受けて2年目のことでした。当時の職員が世間話の中で、「ゆうゆうの駐車場から花火を見たらきれいに見えるんじゃない」「トイレもあるしいいよね」という話でした。当時の所長が法人の会議に話を進めていく中で、「やるんだったら、みんなで花火を見よう!」と計画を立てました。ゆうゆうの利用者・家族、職員だ

けでなく、法人内の事業所の利用者・家族、関係のある支援機関や地域の方、ボランティアの方、障害福祉課の方にも声をかけて、みんなで花火を見よう!ということになり、現在に至ります。今年には200名の方が参加しました。ビールやジュース、焼きそば、から揚げ、枝豆、サラダ、キュウリの一本漬、かき氷、どれも美味しくお腹いっぱいになりながら、皆さんで花火を見上げ、真夏の一時を満喫しました。事前準備や当日の準備を手伝ってくださった、ご家族の方、関係者の方に感謝申し上げます。

(みなみ 酒井)



### 戸田ふるさと祭り

8月18日、19日に第44回戸田ふるさと祭りが戸田競艇場屋外駐車場にて開催されました。今年も「とだ共同受注センターこるぼ」として展示ブースに出店し、ゆうゆうのどらやき、アイスどらやき、水ようかん、ハーモニーのクッキー、カフェこるぼのアイスコーヒーを販売してきました。わかくさ、かがやき、ゆうゆうから職員や利用者さんが参加し、ボランティアさんの協力のもと、二日間約3万9千円の売り上げることができました。猛暑の夏でしたが、この二日間は幸い涼しく、普段暑いときには売れ行きが伸びないどらやきも完売することができました。

年齢層も幅広い祭りの来場者。ゆうゆうのどらやきを見て「あいパルで買ってー!ファンなの!」  
と言ってくれる親子、ゆうゆうのすぐ裏の上戸田南保育園のママさ



んも「お迎えの時間は締まっているからいつも買えなくて・・・」と言って、ご購入下さいました。「戸田中のグラウンドのところでしょう? 知ってる! あそこの人たち、頑張ってるよね。いつも見てるよ!」と嬉しい言葉をかけてくださる方もいました。商品をたくさん売りたいのはもちろんですが、障害を持つ方たちが、美味しい商品を作っていること、売り子さんとして暑い中頑張っていること、それをたくさんの方たちに知ってもらうことが出店の目的だったので、今年の戸田ふるさと祭りへの出店も大成功でした!

(ゆうゆう 浜田)

# 表現活動

## 埼玉県障害者 アート企画展、 今年も開催!

戸田わかくさ会も所属している『埼玉県障害者アートネット』

トワークTAMAPPO(通称タマップ)は今年も障害者アート企画展を開催します。昨年度までは埼玉県立近代美術館で開催していましたが、今年度は大宮にあるソニックシティで開催します。そして、今年度のタイトルは『ソニックブーム!うふっ』です。さまざまな「表現」の在り方を観ることができ、この展覧会、見逃すと絶対に損です! さあ、11月の一大イベント! ソニックシティへGO!

(わかくさ清水)



武蔵野銀行戸田西支店にて、ポストカードの展示会を行っております。  
11月30日(金)まで開催しています。

### 第9回埼玉県障害者アート企画展

『ソニックブーム!うふっ』

会期: 11月23日(金・祝)~11月25日(日)

10:00~18:00(最終日25日は15:00まで)

会場: ソニックシティ第2・3・4展示室

(JR大宮駅より徒歩3分)

入場料無料

主催: タマップ、社会福祉法人みぬま福祉会

共催: 埼玉県

# 予定

### 「県庁オーフンター」

日付... 11月14日

時間... 9時~16時

会場... 埼玉県庁(浦和駅から徒歩約10分)

【県民の日に埼玉県庁で、ゆうゆうが参加します。】

【ご当地グルメやイベントが盛りだくさん行われます。】

### 「第3回戸田わかくさ会まつり」

日付... 12月8日

時間... 10時~15時

会場... わかくさ

・あいらの杜(駐車場)

【地域の方への感謝をテーマに実施します。皆様ふるってご参加ください。】

### 「埼玉セルズバザールin大宮駅コンコース」

(ゆうゆう)

日時... 12月12日~14日

時間... 12日 13時~20時

13日 10時~20時

14日 10時~19時

会場... 大宮駅西口コンコース

【埼玉県内の障害者施設で製造・作成した商品の販売を行います。】

ゆうゆうからは、どら焼きの販売を行います

### (編集後記)

今年の夏も多くのイベントがありました。利用者の皆さんが楽しく過ごしている姿を見て、われわれ職員も嬉しく思っております。今年、法人の祭り『わかくさ会まつり』が行われます。皆さんと一緒に楽しめる祭りになれるよう、職員一同頑張ります。地域の皆様にも楽しんで頂ければと思っております。(太田)

### (法人の運営する事業所)

わかくさ、福祉作業所ゆうゆう、福祉作業所かがやき、グリーングラス、障害者生活支援センターわかば、障害者就労支援センター、障害者就業・生活支援センターみなみ、指定特定相談支援事業所ひかり



(ホームページはこちら)

<http://www.wakakusa-kai.com/>

facebookもやっています

### 【発行】

社会福祉法人戸田わかくさ会  
〒335-0021 戸田市新曽1522-1  
TEL 048-432-8198 FAX 048-432-8298